

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0039

研究課題名（和文）近世アジアと砂糖の世界史：砂糖の生産・国際流通・消費文化に関する国際共同研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Early Modern Asia and the World History of Sugar: An International Research on Sugar Production, Trade and Consumption Culture (Fostering Joint International Research)

研究代表者

島田 竜登 (Shimada, Ryuto)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：80435106

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,300,000円

渡航期間： 6ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は17・18世紀を中心に、海域アジアでの貿易商品の生産や流通、消費文化の分析を行うことで、海域アジア社会の変化が1680年以後に大きく生じたことを明らかにした。それまでは生糸などの奢侈品貿易が中心であったが、17世紀末以後、砂糖をはじめ、米や銅、錫といった比較的安価な商品の貿易がアジアでは盛んになった。こうしたアジア社会の変化を近世後期におけるグローバルな同様の変化傾向と軌を一にしていたと位置付けた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世海域アジアの域内貿易および世界貿易について、オランダ語史料や他の欧語・アジア語史料を組み合わせるといふ多言語史料に基づいた実証的な研究を進め、上記の「研究成果の概要」に記した研究成果を得られた。また、グローバル・ヒストリー的な視点から、この実証研究の成果の意義を明らかにし、そのうえで、現代にいたるグローバル化の歴史的展開にかんして、日本を含めた近世アジアの立ち位置を明確とするようなグローバル・ヒストリー研究の新たな方向性を提起した。

研究成果の概要（英文）：This research project worked on the production, trade and consumption culture of commodities in maritime Asia during the seventeenth and eighteenth centuries, and it made clear a fact that maritime Asian societies largely changed after the 1680s. Before then, luxury products like raw silk were traded, while cheaper commodities such as sugar, rice, copper and tin became major items in Asian maritime trade after the late seventeenth century. This change in Asian societies was on the same course of the global trend in the latter half of the early modern period.

研究分野：海域アジア史、グローバル・ヒストリー

キーワード：グローバル・ヒストリー 世界史 経済史 貿易史 交流史 東洋史 近世アジア 東インド会社

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景としては次の3点を挙げる事ができる。

第一には、近世アジア史をグローバル・ヒストリー的な立場から研究する方向性が国際的に模索され始めており、それを国際的な連携を構築して進める必要性が背景にあった。というのも、従来のグローバル・ヒストリー研究の主流は、19世紀以後の西洋の拡張史あるいは資本主義や西洋文明の世界拡張の歴史を描き出すことであった。しかし、本研究はそれに先立つ直前の時代を扱い、より長期的な視点で西洋の拡張史を相対化させるとともに、西洋ではなくアジアの立場も十分に考慮に入れてグローバル・ヒストリー研究するというものである。いわば、これまでの研究とは、時代も視点も異なるものである。したがって、従来のグローバル・ヒストリー研究の潮流を相対化させるような世界的な歴史学研究の新潮流を生み出す必要が感じられ、本研究がその一助となることをもくろんだのである。

第二には、近世アジア史研究にかんして、マルチ・アーカイバル手法に基づく研究を国際的に推進する必要性が背景にあった。本研究では、これまでの研究では、あまり利用されてこなかった重要史料であるオランダ東インド会社文書の利用が一大特色となっているが、くわえて、日本語史料、中国語史料、マレー語史料、ペルシア語史料などとアジア現地語史料をも同時に用いるマルチ・アーカイバルな手法を国際共同研究を通じて採用することで、単なる推測にすぎない歴史研究を排除し、実証的に研究をおこなうことを可能ならしめ、研究水準を大幅に向上させる国際的運動の一助となる必要と感ぜられていた。

第三は、近世アジア史研究について、若手研究者間のネットワーク形成を形成する必要がある。日本や海外で研究に従事する大学院生やポストドク研究員などが本国際共同研究に参加することで、日本人若手研究者も研究キャリア形成上、初期の段階から国際的で第一線級の共同研究に参画することが可能となり、将来の格段に進化した国際共同研究を生み出す土台を提供することが必須と思われていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、基課題を格段に発展させるために、「近世アジアのモノからみたグローバル・ヒストリー：生産・国際流通・消費文化」を実質的な課題として研究を進めることとして申請し、採択された。すなわち、基課題が「砂糖」のみを対象としていたのに対し、本研究では、「綿織物」「胡椒」「錫」等も対象に加えることで、近世アジアの経済史・貿易史研究に従事する裾野の広い研究者と国際共同研究を行うこととしたのである。

これらの商品は近世の海域アジア（東アジアから西アジアまでの海のアジア）で多量に生産されていた。ヨーロッパ各国が欧州市場のためにアジアから持ち出すばかりではなく、アジア商人によっても取引され、ヨーロッパやアジアなどの生産地とは遠く離れた地においても消費されていたのである。研究代表者がかつて博士論文で研究した「銅」、基課題で研究中の「砂糖」に、これら多数の商品の生産・流通・消費を加えることで、複合的な視点から近世海域アジアならびに世界の商品連鎖を分析し、アジアから見た実証的なグローバル・ヒストリーを構築することを試みることを目的とした。

さらに、本研究は2つの特殊な目的も持っている。第一は、国際的なネットワーク形成である。17世紀はオランダの黄金時代ともいわれるように、17世紀から18世紀にかけてオランダは世界各地に進出し、各地の社会について様々な記録を残した。そのため、現在のオランダには当時の世界各地の社会にかんする多様な記録が保存されている。かくして現在では、この記録の閲覧を求めて世界各地から17・18世紀を専門とする歴史家が世界各地からオランダに集まる。結局、オランダに長期間滞在することによって、オランダ人研究者ばかりでなく、オランダ語の記録を求めて世界各地からオランダにやってくる研究者とも交流を図ることができる。こうしたオランダの状況を背景に、オランダとの国際共同研究だけではなく、世界各地の研究者との今後の共同研究ネットワークづくりという目的も視野に入れて本研究を実施した。

第二の特殊な目的とは、日本側の共同研究の参加者は本研究代表者に限ることなく、近世アジア社会の研究を行う日本の若手研究者にも研究協力者として参加を求め、とくに国際研究集会などを通じて、全体として国際共同研究をより実のあるものとするところである。このことは、歴史学の分野における国際共同研究のよりよい在り方のひとつとして模索する試みであったといえよう。

## 3. 研究の方法

2016年度から本研究は開始されたが、国際共同研究、とくにオランダという相手国側に長期間滞在する研究内容のため、実際の立ち上げには受け入れ態勢をえるための調整などに時間を要し、2017年1月に交付申請を行った。その後、2017年度以降から本格的な研究活動を開始した。2017年4月から9月にかけてはオランダに滞在し、ライデン大学人文学部史学科に籍を置き、研究活動を行った。なお、日本の本務校側からは特別研究期間（いわゆるサバティカル）の適用を受けた。また、その後は、国際研究集会や研究打ち合わせ、補足的な史料調査のために、オランダやイギリス等に短期間（1か月以内）の渡航を行った。

具体的な研究としては、基礎的データをオランダ国立公文書館が所蔵するオランダ東インド会社文書を用いて収集した。まずオランダ東インド会社ないしは他の商業集団による貿易数量データを集め、その上で、オランダ東インド会社文書から生産と消費に関する基礎的（数量な

らびに文字) データを収集した。これらの収集データをもとに、他の欧語史料やアジア言語史料からの情報を組み合わせて歴史像を構築することを試みた。

さらに、このような個別的な研究を国際共同研究の形で進めることを通じて、2018 年度には東京で国際研究集会を開催するなど、近世アジア史をグローバルな見地から再検討する国際共同ネットワークの構築にも努力した。

具体的には、ライデン大学のもつ国際的な研究ネットワークを利用して、近世アジア史をグローバル・ヒストリーの立場から研究する国際ネットワークを構築するため、オランダ滞在中にはイタリアのナポリ東洋大学に出張するなどして、広範囲な国際共同研究を進めることにした。また、こうしたオランダを主拠点としたネットワークを利用して、イギリスのウォリック大学グローバル・ヒストリー研究所、インドのプネー大学、チリ・カトリカ大学とも共同研究を進めるようにした。2018 年度にはナポリ(イタリア)、ベネチア(イタリア)および東京で国際研究集会、2019 年度にはウォリック(イギリス)、サンティアゴ(チリ)において国際研究集会を開催ないしは共催に準じる等の形で参加した。

#### 4. 研究成果

研究成果としては大きく2つに分かれる。個人レベルの研究成果と国際共同研究ネットワークの組織化という成果の2つである。

##### (1) 個人レベルの研究成果

国際的な共同研究を実施した成果としては、まず、研究代表者の個人的な研究レベルでの成果である。この個人レベルでの成果としては、とくに貿易史を中心とした経済史的成果とグローバル・ヒストリー研究上の成果に分けることができる。どちらの成果に関しても、国際学会や国際研究集会で報告し、さらに英語ないしは日本語での論文として公表しており、一部は現在も公刊準備中である。

##### 貿易史を中心とした経済史的成果

近世アジアの社会や経済をグローバル化の流れから見たとき、およそ1680年代を境に変化し始めたことが明らかとなった。それ以前は「商業の時代」とも呼ぶべき海上貿易の盛んな時代であったが、生糸や高級香辛料に代表されるような奢侈品貿易が中心の時代であったし、その奢侈品の取引にあたっては銀が支払い手段となっていた。一方、1680年代以降、海域アジア各地の内地社会においては、商品作物栽培や銅や錫といった非貴金属の鉱山の開発といった従来とは異なった発展がみられるようになった。とくにその栽培ないしは生産される商品に着目すると変化の具合は非常に顕著である。農産物としては、米、砂糖、茶などの生産が興隆し、金属鉱山でも銅や錫の生産が盛んとなった。旧来のような高級香辛料のような商品ではなく、安価で庶民向け作物の栽培発展がみられたのである。さらに、ヨーロッパ・アジア間の貿易だけでなく、アジア域内貿易も発展していたことが明らかとなった。以上の実証的研究成果が意味するところを端的に述べると、近世後期、すなわち1680年代以降のアジアの社会は、一般庶民の経済的な豊かさの向上も伴ったとも考えられる発展を遂げていたといえる。そして、この結果として、アジア社会では19世紀後半以降の本格的な近代化への内的準備が進んだといえる状況にあったと考えられる。

##### グローバル・ヒストリー研究上の成果

また、近世アジア経済史に関するこうした実証的研究成果をもとにして、グローバル・ヒストリー研究の見直しを積極的に提起した。第一に、ヨーロッパ基準によるグローバル化の歩みを描くことだけがグローバル・ヒストリー研究の目的ではなく、多様なアジア社会の変化をアジア内部での変化や西洋社会との双方向的な影響のもとに進んでいったことを捉えることこそが、グローバル・ヒストリー研究を格段に進歩させると主張した。

第二には、グローバル・ヒストリー研究における「近世」という時代区分にかんしてである。ともするとグローバル・ヒストリー研究は19世紀後半以降の世界史の叙述に偏りがちであるが、16世紀初め以降からのいわゆる「初期近代(=近世)」において、潜在的に進行するグローバル化とそれに応じた世界各地の社会の変化が進展していったことを明らかにした。

##### (2) 国際共同研究ネットワーク形成という成果

第二の成果は、本国際共同研究をすすめることで、国際共同研究のネットワークを構築することができたことである。オランダのライデン大学を中心に、ナポリ東洋大学、ウォリック大学、プネー大学、チリ・カトリカ大学とは組織的に国際共同研究を今後も行うことができる体制が整ったし、さらに個人ベースでの今後の国際共同研究の相手先は世界各地で無数となったといえるだろう。また、研究代表者ばかりでなく、大学院生やポスドク研究者も参加したことで、近世アジア史をグローバル・ヒストリー研究のなかに位置付けた研究にかんして、より広範な国際共同研究ネットワークを実現できた。

なお、現在、本研究代表者も編著者となる英文論文集を3冊編集中であり、国際的な学術出版社から出版の予定である。くわえて、さらなる新しい国際共同研究を推し進めている状況にある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 -
2. 論文標題 Tayowan as a Global Center: Trade and Agricultural Development in Taiwan by the Dutch East India Company during the Seventeenth Century	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Liu Yi-chang and Ann Heylen (eds.), Nanying History, Society and Culture V: Early Tainan Region, Tainan: The International Center of Tainan Area Humanities and Social Science Research	6. 最初と最後の頁 205-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 -
2. 論文標題 South Asian Settlers at Batavia in the Seventeenth and Eighteenth Centuries	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Rila Mukherjee and Radhika Seshan (eds.), Indian Ocean Histories: The Many Worlds of Michael Naylor Pearson, London and New York: Routledge	6. 最初と最後の頁 124-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 島田竜登	4. 巻 -
2. 論文標題 「長期の一八世紀」の世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 147-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 -
2. 論文標題 Southeast Asia and International Trade: Continuity and Change in Historical Perspectives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Keijiro Otsuka and Kaoru Sugihara (eds.) Paths to the Emerging State in Asia and Africa, Singapore: Springer	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 -
2. 論文標題 Iranian Settlers in Ayutthaya and Intra-Asian Trade during the Seventeenth- and Eighteenth Centuries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clara Wing-chung Ho et al. (eds.) Collected Essays of To the Seas and Beyond, Hong Kong: Hong Kong Museum of History	6. 最初と最後の頁 111-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田竜登	4. 巻 -
2. 論文標題 アジア海上貿易の転換	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 島田竜登編 『1683年 近世世界の変容』 山川出版社	6. 最初と最後の頁 18-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 -
2. 論文標題 Invisible Links: Maritime Trade between Japan and South Asia in the Early Modern Period	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 A.J.H. Latham and Heita Kawakatsu (eds.), Asia and the History of the International Economy: Essays in Memory of Peter Mathias, London and New York: Routledge	6. 最初と最後の頁 57-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 79
2. 論文標題 Beyond Diplomacy: Japan and Vietnam in the 17th and 18th Centuries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Newsletter, The International Institute of Asian Studies (IIAS)	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島田竜登	4. 巻 -
2. 論文標題 近世海域アジア世界とオランダ東インド会社の日本貿易	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 荒野泰典編『近世日本の国際関係と言説』溪水社	6. 最初と最後の頁 187-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田竜登	4. 巻 -
2. 論文標題 ケンベルとシャム 一七世紀末のタイ・アユタヤ朝の一断面	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 川分圭子・玉木俊明編『商業と異文化の接触 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』吉田書店	6. 最初と最後の頁 777-798
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田竜登	4. 巻 -
2. 論文標題 史上初のグローバル・カンパニーとしてのオランダ東インド会社	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 羽田正編『グローバル・歴史の可能性』山川出版社	6. 最初と最後の頁 287-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 30件)

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Latin American Silver into Tokugawa Japan
3. 学会等名 The Pacific Rim from Global Historical Perspectives, 1492-2018 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田竜登
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：「長期の18世紀」と海域アジア 港市と農村の社会变化
3. 学会等名 2019年度東方学会秋季学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Keynote Lecture: Nagasaki: A Gateway of Tokugawa Japan to the World Economy
3. 学会等名 Expert Meeting: Between Realism and Reality (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Commodity Chain and Cultural Divergence
3. 学会等名 Workshop: Categories at Work in Global History (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Japanese Views of the World from a Historical Perspective
3. 学会等名 German-Japanese Joint Symposium: Cultures in Translation: World History - World Literature - World Society: Japan, Germany and the World in a Transcultural Comparison (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 New Scopes for Asian Maritime History in the Early Modern Period from Global Perspectives
3. 学会等名 International Conference: Maritime Monsoon Asia in the Early Modern Period: Global Trade and Early European Colonial Cities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Intra-Asian Trading Networks and the Dutch East India Company during the Seventeenth and Eighteenth Centuries
3. 学会等名 International Symposium: Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c. 1550-1850 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Maritime Traders and Trade Pattern in Transition in South Asia and Southeast Asia in 1780-1870: A Case Study of Java
3. 学会等名 XVIII World Economic History Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Global Copper Trade in the Seventeenth and Eighteenth Century
3. 学会等名 XVIII World Economic History Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Competition in the Indian Sales Market for Copper between Dutch and English Companies during the Eighteenth Century
3. 学会等名 XVIII World Economic History Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 The Pacific Rims in Global History
3. 学会等名 International Workshop: The Pacific Rim from Global Historical Perspectives, 1492-2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田竜登
2. 発表標題 グローバル・ヒストリーのなかの産業革命と技術革新：現在への示唆
3. 学会等名 第23回進化経済学会オータムコンファレンス (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Japanese Views of India during the Early Modern Period
3. 学会等名 Seminar on Networks of Knowledge in the Asian World: 16th to 19th Centuries (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Ryuto Shimada
2 . 発表標題 Japanese Views of India and the World during the Early Modern Period
3 . 学会等名 International Workshop: Trade, Migration, Belief: Crossing Early Modern Asia, 16th-18th Centuries ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Ryuto Shimada
2 . 発表標題 The Growth of International Trade in Early Modern and Modern Southeast Asia
3 . 学会等名 International Workshop on Emerging States in Global Economic History (2) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Ryuto Shimada
2 . 発表標題 Maritime Asian Trade in the Eighteenth Century from Global Perspectives
3 . 学会等名 Seminar at the Department of Asia, Africa and Mediterranean, "L ' Orientale" University of Naples ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ryuto Shimada
2 . 発表標題 Competition in the Indian Sales Market for Copper between Dutch and English Companies during the Eighteenth Century
3 . 学会等名 Fifth European Congress on World and Global History ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Indonesians to Tokugawa Japan: Indonesian people at the Dutch Trading Post in Nagasaki and Japanese Impression of Islam in the Early Modern Period
3. 学会等名 Seminar at Faculty of Humanities, University of Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Tainan as a Global Center: Global Trade and Agricultural Development by the Dutch East India Company in the Seventeenth Century
3. 学会等名 The Fifth International Conference on Tainan Area Studies: Political, Economic, and Cultural Development of the Early Tainan Region (10th-18th Century) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島田竜登
2. 発表標題 「グローバル・ヒストリーは共生の歴史学となりうるのか？」
3. 学会等名 比較文明学会第35回大会シンポジウムII「暴力を乗り越えることができるか」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島田竜登
2. 発表標題 日本植民地時代の台湾における東南アジア史研究 台北帝国大学文政学部南洋史学講座を中心として
3. 学会等名 台湾学研究中心10周年国際学術検討会「近代台湾与東南亜」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 The Japan Trade by Persian Settlers at Ayutthaya in the Seventeenth Century
3. 学会等名 Workshop: “The Persian Gulf as a Global Commercial Sphere, 1500-1800” (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 島田竜登編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 272
3. 書名 『1789年 自由を求める時代』	

1. 著者名 島田竜登編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 270
3. 書名 『1683年 近世世界の変容』	

1. 著者名 水島司・島田竜登	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 232
3. 書名 『グローバル経済史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ホマンス ヨス  (Gommans Jos)	ライデン大学・人文学部・教授	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	シュリッカー アリシア  (Schrikker Alicia)	ライデン大学・人文学部・准教授	